

交通安全だより第2号

I. 2月の安全運転管理について

1. 冬道での安全走行について

～冬道走行の危険を意識しよう～

暦の上では立春を迎えましたが、厳しい寒さが続きますので路面の凍結に注意が必要です。凍結した路面ではスリップによる事故の危険が高まるため、次のような場所では十分に速度を落とすとともに、急ハンドルや急減速、急加速と言った「急」のつく運転操作を行わないことを意識しましょう。

- ・橋の上
- ・トンネルの出入口
- ・切り出し（山や丘陵などの間を切り開いた場所）
- ・日陰部分



～大雪での運転は安全第一で～

冬季は気象情報をこまめに確認し、大雪に備えましょう。降雪が予想されている地域に向かう前には必ずスタッドレスタイヤを装着し、タイヤチェーンを携行して下さい。また、高速道路各社からは大雪時の対応として、今シーズンは「道路ネットワークを確保すること」から「人命を最優先に、大規模な車両滞留を徹底的に回避すること」が発表されました。これにとともに、従来よりも早いタイミングで、通行止めが行われることが予想されます。そこで、事業場ではこまめに交通情報を確認して、通行止めが予想される際には、広域的な迂回や出発時間の変更等を検討しましょう。

～車間距離の確保を徹底する～

冬道は道路が滑りやすくなります。乾燥路と比較して、圧雪路で3.2倍、凍結路では5.4倍も滑りやすくなっています。（出典：日本自動車タイヤ協会）。そのため、雪道で普段と同じ感覚でブレーキ操作を行うと簡単にスリップしてしまいます。スリップ事故を防止するためには、路面が滑りやすいことをしっかりと意識して、普段以上の車間距離を確保して下さい。合わせて速度も控えて運転するようにしましょう。

2. 積極的に危険を探して事故防止につなげる

運転で大切なことは、危険を見逃さないことです。一見、危険はないと思われる場面でも、実は近くに事故に繋がる危険が隠れていることは少なくありません。例えば、前方に駐車車両がある場合、駐車車両が死角を作り、歩行者を隠していることがあります。漫然と運転していると駐車車両の陰から出てきた歩行者と衝突する危険があります。「心ここに在らざれば視れども見えず」のことわざにあるように、危険を見つけようとする意志がなければ発見することはできません。見えない危険を積極的に探しながら運転するようにしましょう。

3. うっかり事故を防ぐ

より身近になったセルフ式ガソリンスタンドですが、燃料の入れ間違いが発生しています。燃料を間違えるとエンジンが故障する恐れがあり、更には事故の原因になりかねません。給油ノズルの色は法令により定められており、ハイオクガソリンが黄、レギュラーガソリンが赤、軽油が緑です。車検証で燃料の種類を確認しておくとともに、給油の際はノズルの色をチェックしてから給油するようにしましょう。

II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅途中
どこで	一般道路
何をしている時に	直進中
どうなった	路面が濡れているだけと思いブレーキを踏んだら凍結しており、滑って縁石に乗り上げてしまった

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年2月某日 16時頃 天候：晴れ

◆事故の当事者

A / 36歳 乗用車運転 乗用車運転歴：10年

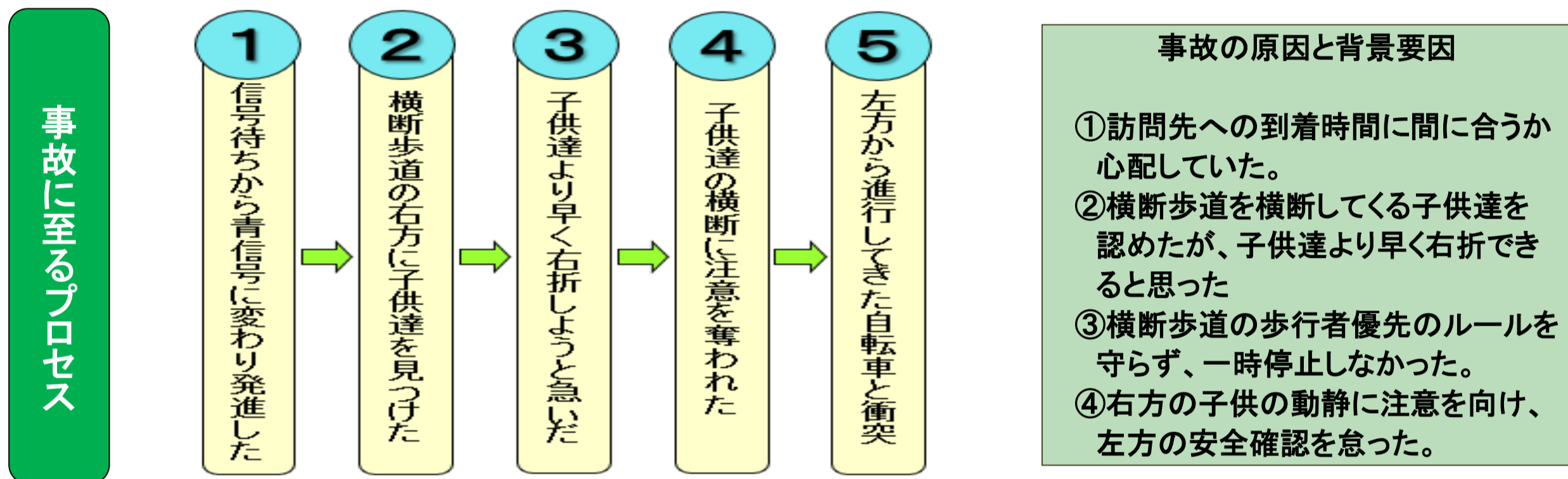
B / 17歳 自転車運転

◆事故の発生概要

食品会社に勤務しているAさんは、乗用車を運転して営業活動をしていました。右折すべき交差点に近づきましたが、信号が赤色に変わったため停止しました。停止している間、次の顧客先への訪問時間が迫っていたので少し心配になってきました。

信号が青色に変わったので、交差点を右折するために発進しました。対向直進車はいないことを確認したあと、右折先の横断歩道を見ると右方から何人かの子供が横断してくるのが見えました。その時、Aさんは子供達が横断するよりも早く、自分が通過することができると判断して進行しました。

一方、自転車を運転していたBさんは、Aさんの車を認めていましたが「止まってくれるだろう」と轻信し、歩道から横断歩道にスピードを落とさずに進行しました。Aさんは、右方から横断してくる子供たちに注意しながら進行したため、左方から横断歩道を走行してきた自転車に気づくのが遅れ、急ブレーキを踏みましたが間に合わず衝突しました。



類似事故を起こさないために運転者の対策は

- **右折開始前に交差点全体をよく確認する**
交差点に近づくまでの間や右折待機中に交差点全体を広く見て、対向車や歩行者、自転車の有無と動静を確認する。横断歩道を渡っている歩行者を見つけた場合、横断歩道の手前で一時停止して道を譲ること。
- **注意をバランスよく配分する**
注意すべき対象が一方に偏ると、他方の危険を見落とすおそれがある。右折先の横断歩道手前で左右から歩行者や自転車が渡ってこないか確認する。

ワンポイントアドバイス

自転車運転者の意識と運転行動を理解する

自転車運転者は右左折車がいる交差点を横断する場合、次のような意識を持ちがちです。

- ・横断歩道等の信号が青色なら、とくに注意を払うことなく横断しても安全だ。
- ・青信号だから右左折車が止まるはず。
- ・自分(自転車)からは右左折車がよく見えるから、右左折車も自分を認めているはず。

このように、自転車は右左折車に十分に注意しない傾向があるため、横断歩道の手前で停止することを習慣づけましょう。

